

ハナスバ2018

beyond
2020

ワーク
×
ライフ
||
幸福?!

アートがしかける
仕事と生活の
よりよい関係



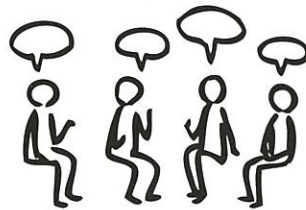
日本遺産滋賀・びわ湖
フィールドサーヴェイプロジェクト

レクチャー

熊川宿若狭美術館



トークセッション



てつがくカフェ



2018. 8. 18 土 <聴く編>
19 日 <話す編>

両日とも 13:30 - 16:30

会場：福井 北ノ庄クラシックス
参加費：各日1,500円(ドリンク付き)
定員：各日30名

主催：NPO法人 福井芸術・文化フォーラム



<聴く編> 8.18(土) 13:30~16:30 (受付開始13:00)

報告
13:40~14:30

「大学生×障がい者支援施設×地域」 —日本遺産滋賀・びわ湖フィールドサーヴェイプロジェクト2017の試みから—

馬場晋作(成安造形大学芸術学部准教授・美術家)・石川亮(成安造形大学芸術学部准教授・美術家)
森太三(美術作家)
石野大助(信楽青年寮支援員)
上井彩希・内田弓葉(成安造形大学芸術学部学生)

報告
14:40~15:10

「美術の視点から社会をゆらす —熊川宿若狭美術館—」

長谷光城(熊川宿若狭美術館館長)

トーク
セッション
15:20~16:20

「ワークとライフのよりよい関係とは?」

馬場晋作(成安造形大学芸術学部准教授・美術家)
石川亮(成安造形大学芸術学部准教授・美術家)
森太三(美術作家)
石野大助(信楽青年寮支援員)
長谷光城(熊川宿若狭美術館館長)
荒川裕子(福井芸術・文化フォーラム事務局・アートマネージャー)

進行:三脇康生(仁愛大学心理学科教授・精神科医)

■終了後はドリンクを飲みながら
会場にいる皆さんと自由に交流ください



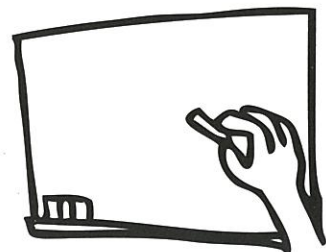
<話す編> 8.19(日) 13:30~16:30 (受付開始13:00)

てつがくカフェ「働く」とは何か?

仕事と生活。私たちは生きるために働きお金を稼ぎ生活をする。社会は働くことへの対価によってうまれる生活の集合体であり、働くことが前提で社会が構築されている。最近よく耳にする「ワークライフバランス」という言葉。仕事と生活の調和を意味する。仕事と生活の相乗効果は経済も人も豊かにするのである。しかしながら働くことは人間にとって必須なのでしょうか。人手不足が深刻化し一億総活躍がますます求められていく中、働くことの意味をじっくり皆さんと対話していきたいと思ひます。

荒川裕子(福井芸術・文化フォーラム事務局・アートマネージャー)

ファシリテーター:西村 高宏(福井大学医学部 医学教育・倫理学分野)
ファシリテーション・グラフィック:近田 真美子(福井医療大学 保健医療学部)



三脇康生
Yasuo MIWAKI

仁愛大学心理学科教授・精神科医
京都大学文学部(美学美術史)卒業、
同大学医学部卒業、パリ第一大学科学
哲学科DEA課程卒業、京都大学
医学研究科博士課程卒業。精神科医
として勤務し、芸大非常勤講師を務め
つつ美術展覧会の企画に参加し作品
を批評してきた。フランスと日本の
精神医療を比較検討し精神医療の
考察を行っている。



森 太三
Taizo MORI

美術作家
1974年大阪生まれ。1999年京都精華
大学大学院美術研究科修了。1996年
の初展以降、個人の身体感覚によ
って生み出した小さなカタチを集積
させて、展示空間内に架空の風景を
表出させる作品を発表。みずのき
アトリエ講師、みずのき美術館設
営スタッフ、京都精華大学・京都造
形芸術大学・成安造形大学非常勤
講師。



長谷光城
Mitsushiro NAGATANI

熊川宿若狭美術館館長
多摩美術大学卒業。現代美術作家
として活動する傍ら、福井県内小・中
・高校の美術教諭、校長を経て、「若
狭ものづくり美学舎」を開学。2010年
、障がい者や特別な支援を必要とする
人の公募アート展「きらりアート展」
創設。NPO法人若狭美&Bネット理事長。



西村高宏
Takahiro NISHIMURA

福井大学医学部准教授
専門は臨床哲学。〈対話〉という営み
とおして、哲学的な知の社会的接続の
可能性を問い直すことが現在の主な
研究テーマ。様々な職業従事者と連携
し、医療や教育、科学技術、政治、
アートなどのうちに潜む哲学的な
諸問題を読み解く活動を行なっ
ている。現在、てつがくカフェ「医療と
ケアを問い直す」を企画運営している。



近田真美子
Mamiko KONDA

福井医療大学保健医療学部准教授
日本赤十字広島看護大学、北海道
医療大学大学院博士前期課程修了。
大阪大学大学院博士後期課程に在籍
中。浦河赤十字病院の精神科をはじめ
外科病棟やICU病棟で働いてきた。
西村とともに、てつがくカフェのスタッ
プとしてファシリテーション・グラフィ
ックを担当している。



石野大助
Daisuke ISHINO

信楽青年寮支援員
1965年滋賀県生まれ。地元信楽町
で生まれ育ち、小さな時から陶器に
親しんできた。陶磁器釉薬製造会社
勤務を経て、2000年より信楽青年寮
に勤務する。2001年より日中活動
支援員を務め、陶器班を担当する。
2012年より展覧会担当を兼務する。



石川亮
Ryo ISHIKAWA

成安造形大学芸術学部准教授・美術家
1995年京都精華大学美術学部(現
芸術学部)卒業、現在、成安造形大
学附属近江学研究所研究員。宗教観
と自然観を生活の中に取り込み、自然
と対峙しながらも共存してきた日本
人の感覚に注目している。アートデ
レクターとしても活動。



馬場晋作
Shinsaku BABA

成安造形大学芸術学部准教授・美術家
1978年京都生まれ。2011年京都市
立芸術大学大学院美術研究科博士(後
期)課程修了。他者とのゆるぎある
関係の中で現れる曖昧な個人やもの
の見え方に着目し研究、活動する。
2012年「自然学」(滋賀県立近代美術
館)など、関西を中心に作品を発表。



上井彩希
Saki UEI



内田弓葉
Yumiha UCHIDA

成安造形大学芸術学部学生
日本遺産滋賀・びわ湖フィールドサー
ヴェイプロジェクト2017に
学生クリエイターとして参加。





日本遺産滋賀・びわ湖 フィールドサーヴェイプロジェクト

成安造形大学が2016年度から「日本遺産滋賀・びわ湖※」をモチーフにフィールドサーヴェイ(実地を基本とした調査手法)により行っているアートプロジェクトの名称。2017年度は大学教員や学生、及び協力アーティストが、信楽青年寮※とタッグを組み、プロジェクト参加者全員をクリエイターと位置づけた。

※日本遺産滋賀・びわ湖

日本遺産とは地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもの。

※社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮

1955年、故池田太郎によって設立された知的障がい者支援施設。

くまがわじゅくわかさ

熊川宿若狭美術館

NPO法人若狭美&Bネットが日本遺産鯖街道「熊川宿」中枢にある古民家を改装し2018年5月にオープンした美術館。障がい者アート、現代美術、子ども美術の作品を展示し、美術の視点から新しい共生社会の構築とともに、障がい者が働き、地域の人々が憩い、賑わいを創出する場を目指している。



■お申込み

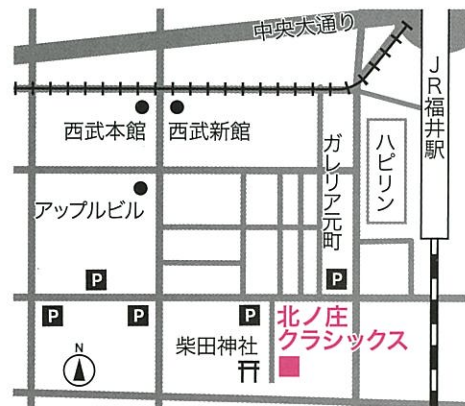
福井芸術・文化フォーラムまで電話・メール・FAXのいずれかの方法にてお申込みください。その際、お名前／ふりがな／電話番号／参加日／をお伝えください。

TEL: **0776-23-6905**
(月～金10:00～18:00 / 土日祝休)

MAIL: **geibun@geibun.info**
◆件名を【ハナスバ】

FAX: **0776-23-7905**

※7月18日(水)より申込み開始、定員になり次第締め切ります。
※情報保障が必要な方は、お申込みの際にお知らせください。
※18日<聴く編>と19日<話す編>の両日参加の方は500円割引いたします。
※メールの方は、返信をもって予約完了とさせていただきます。(あらかじめ<geibun@geibun.info>からのメールを受信できるよう設定をお願いします)
※お申込みの際にいただく個人情報はイベント受付管理に必要とし、それ以外には利用いたしません。



■会場

福井 北ノ庄クラシックス

福井市中央1-21-36 柴田神社小路 (JR福井駅西口徒歩6分)

■企画・主催・お問合せ

NPO法人福井芸術・文化フォーラム

〒910-0019 福井市春山2-7-1 福井市文化会館内

Tel: 0776-23-6905

Mail: geibun@geibun.info

FAX: 0776-23-7905

Web: http://geibun.info



日本学術振興会科学研究費助成事業(課題番号:16K02256)
【基盤研究(C)「アートがつくる新たな支援者関係、その実証的研究」】

後援/福井市、福井市教育委員会、(福)福井県社会福祉協議会、(福)福井市社会福祉協議会、福井新聞社、FBC福井放送、福井テレビ、FM福井、福井ケーブルテレビ、さかいケーブルテレビ、福井街角放送、月刊URALA